



金木犀

訪ねた民家の庭から一瞬、独特の甘い香りがし、足をとめた。「なんだっけ」と記憶をたどり、すぐさま金木犀のにおいであることを思い出した。視線の先に小ぶりの若木があり、緑色の葉の間から、橙黄色の小花が群がるように咲いている。秋の深まりを感じる。

秋の彼岸ごろから花が咲き出す金木犀。晴れた日などは散策の道すがら、どこからともなく芳香が漂ってくるものだ。夏のにぎやかさも異なる、秋ならではの奥行きのある花の香気と色彩。郷愁にかられる気分。

そこはかたなく漂う芳香

中国原産。金木犀、銀木犀、薄黄木犀などがあり、すべてを含めて「木犀」と呼ぶ。日本に渡来したのは江戸時代で、その多くは観賞用の庭木として植えられた(「新日本大歳時記」)。近づきすぎず、ほどよい距離で香りを楽しむのがいい。

絵
つれづれ
文と絵 渡辺 晃



千田・ブラジル県人会長
父親が金ヶ崎出身の縁で
金ヶ崎町はこのほど、希望郷いわて国体開催
高橋由一町長と握手を
交わすブラジル県人会
の千田曠暁会長(左)
と妻照子さん(森山絵
合公園野球場

に合せて来県してい
るブラジル県人会の千
田曠暁会長(75)と妻の
照子さん(75)を同町の
ソフトボール少年男子
競技会場に招待。4年
ぶりに過ごす金ヶ崎で
の時間を楽しんだ。

ブラジル県人会は1
959(昭和34)年10
月、同郷人の親睦交流
を目的に発足。千田会
長の父が同町西根本町
の出身であることなど
が縁となり、同会と同
町は親密な友好関係を
築いてきた。

千田会長らの来町
は、県人会創立55周年
記念式典への招待状を
届けに表敬訪問した12
(平成24)年9月以来、
4年ぶり。千田会長は
「他県で国体が開催さ
れる時、各県人会にも
母県から案内がある。
岩手でも国体開催を機
会に、各国の県人会が
情報交換し交流する機
会が持てないか、昨年県
庁に要請したという。

千田会長夫妻は、4
人の県人会メンバーと
共に、9月30日に盛岡
市内で開かれた海外県
人会交流会に出席。1
日は、北上市で国体総
合開会式を観覧し、2
日は宮古市の浄土ヶ浜
など沿岸被災地を視察
した。

「46年前の国体は、
父安治が観覧した。今
回、私が見ることがで
きて、とてもうれしい」と
千田会長。妻の照子
さんは両親が長崎県出
身という日系2世で、
「ソフトボールは初め
て見た。岩手には何度
も足を運ばせていただ
き、友人もたくさんで
きた。久しぶりにお会
いし、みなさんとの絆
を強めることができ
た」と笑顔を見せた。
今回は、城内諏訪小
路重要伝統的建造物群
保存地区の待屋敷大松
沢家で歓迎会も催し
た。千田会長夫妻のほ
か、一緒に来県した同
町に縁のある会員夫妻
1組も招かれ、食事を
楽しみながら交流の輪
を広げた。

女子63歳以下級 トータル170キロの県新記録を樹立した
佐藤陽南乃選手(水沢高3年)

20
希望

録
◇少年男子(1位記
手(千葉・いちごク
ループホールディング
同団体の村山選手に
く)同時に、競技最終
日に花を飾った。

かして出てきてはし
い」と次に続く選手た
ちにエールを送った。

も足を運ばせていただ
き、友人もたくさんで
きた。久しぶりにお会
いし、みなさんとの絆
を強めることができ
た」と笑顔を見せた。

今回は、城内諏訪小
路重要伝統的建造物群
保存地区の待屋敷大松
沢家で歓迎会も催し
た。千田会長夫妻のほ
か、一緒に来県した同
町に縁のある会員夫妻
1組も招かれ、食事を
楽しみながら交流の輪
を広げた。

南部鉄器4割

恒例のまつり。

第37回市南部鉄器まつりは、8、9日の2日間、水沢区羽田町の市铸件技術交流センターと市伝統産業会館を会場に繰り広げられる。南部鉄器が4割引きで販売される年に1度の機会。他にも恒例の鉄けた飛ばし大会な